

# PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

## 続報 No.340

2022.10/07 (金曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

### No.1778 続報 CH20等特異継続中→特異 9/24 極大認識 新たな 1:1 経験則となるか 10/3.7 PBF 直前特異出現認識→10/12±3発生を示す 10月12 or 13日発生の可能性

#### 特異極大は 9/24 の可能性

CH20特異初現 9/4.3 極大認識 9/24.0

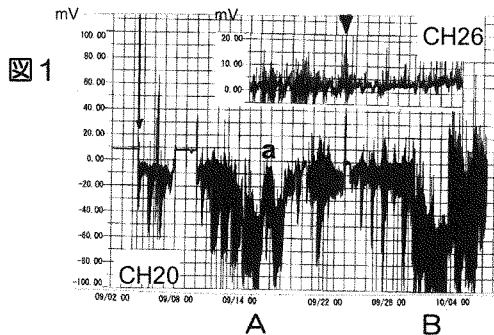


図1 CH20特異初現 9/4.3 極大認識 9/24.0

#### 極大 8/20.8 → PBF 10/3.7 直前特異

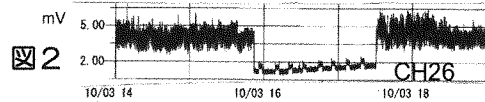
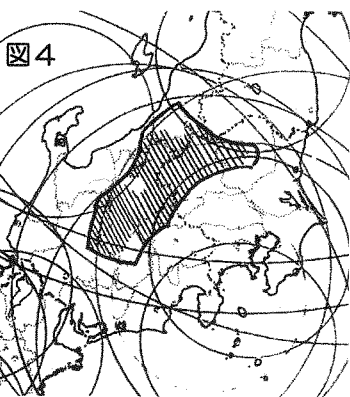
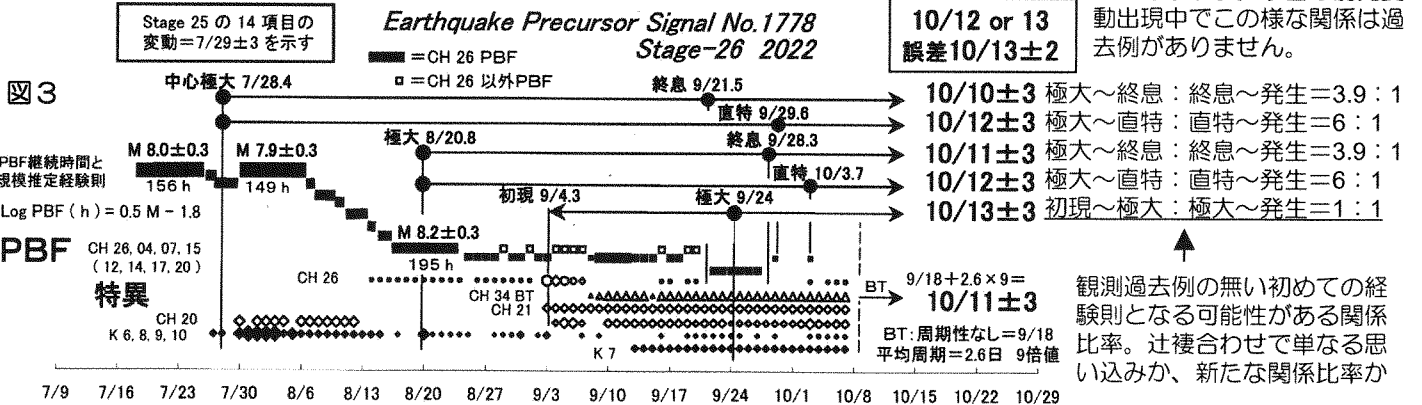


図2 10/3.7に約1時間半のみPBFが再出現しました。8/20.8極大9/28.3終息に対する直前特異とすると10月12日±3発生を示す

図1はCH20の特異初現から本日現在までの基線の状態。図1のaを極大認識していましたが、電圧値が極端に下がるとAと同様な変動Bが現れ、その中心時期に通常基線より若干低い値の直線基線が現れ、同じ時間帯にCH26にも上向きの最大変化が認められます。CH20の特異

変動全体図1を見ても、9/24.0が極大と認識した方が良くと考えます。その場合、CH20特異初現～極大の関係からは10月末発生の可能性が計算されます。他の5項目の変化は10月12日±2時期を示しており、10月末を示す関係は見出せません。唯一考えられるのは、CH20特異初現～極大：極大～発生=1:1の関係となっている可能性です。過去例では主前兆変動が出現する前から特異が現れ、これを先行特異とし、先行特異初現～主前兆極大：主前兆極大～発生=1:1の関係は経験則としてあります。今回は前兆変動出現中でこのような関係は過去例がありません。



- 推定領域：図4太線内領域
- 推定規模：M8.0±0.3
- 推定時期：10月12日or13日 (誤差：10月13日±2)
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±3 または 午後6時±3

CH20は図1の様な変化がありますが、CH21には全く無く通常の特異変動とは合いません。さらに周期性変化が認められるCH34の基線幅増大BTも、通常は極大以降から継続出現しますが、BT初現の9/8前後には極大認識できる変動はありません。つまり今回現れた特異・BT共に過去例に無い出現形態を示しています。このことから唯一他の5項目の示す時期の誤差内を示す「特異初現9/4.3～特異極大9/24.0：特異極大9/24.0～地震発生=1:1→10月13日±3発生」の可能性は否定できないと考えます。この場合、CH20からは10月13日±3発生の可能性が計算されますが、CH21の初現を使用すると10月14日±3発生の可能性が計算されます。またこの特異・BTについての終息については過去例が無いので不明ですが、地震発生時期まで特異・BTは終息しないか、または静穏期間があくまでもある場合は10/9±に終息する可能性のいずれかが考えられます。

前号で示したとおり、7/28.4PBF極大に対する直前特異9/29.6が観測された上、今回図2に示したとおり、8/20.8PBF極大に対し、10/3.7に直前特異認識PBFが観測されるなど、10月12日±3発生の可能性を示す変動が観測されています。以上の認識理解が正しい場合は、14年3ヶ月継続したNo.1778前兆の対応地震は10月12日or13日(10月13日±2)に発生する可能性が否定できません。最大限のご注意をお願い申し上げます。過去経験則が合わない初めて体験する変動変化で自信はありませんが、多くの変動関係から示される10月12日or13日の発生の可能性が否定できない状況です。仮に10月16日段階で対応地震の発生がなく、特異・BTが継続していた場合は、前述理解が間違っていることとなりますので、再考したいと考えます。また発生した場合、推定内容と異なる地震となった場合には平に陳謝申し上げます。(串田嘉男)

※推定内容根拠はNo337を参照下さい  
※図4斜線域は火山近傍参考推定域を示す C) Copyright 2022 YSBO 八ヶ岳南麓天文台